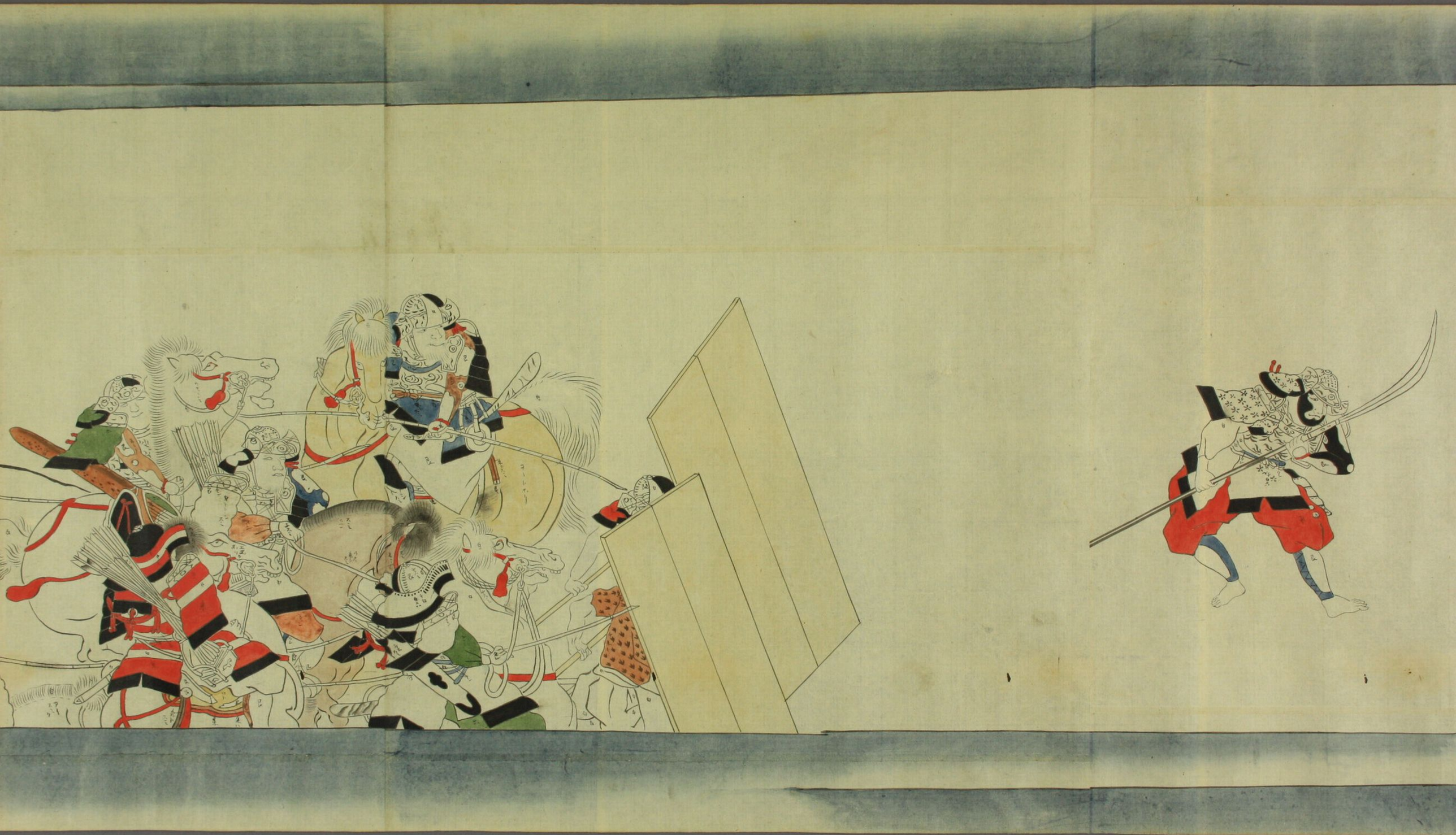
吉彦秀武将軍に申様城の中かたく守
御方乃軍すてになつみぬいまにをきては
せむとも落ることかたし戦をとゝめてたゝ
まきてまもらるへし粮食つきなはかならすおちぬ
つはものともいはく軍をひきて陣をはりてたかく
をまく二方は将軍これをせめ一方は義光これ
をせめ一方は清衡重宗これをせめて日数を
おくる程に武衡かもとに亀次並次といふ
二人の兵ありけりならひなき剛の者ときこえけり
ちかきほとに武衡使を将軍乃陣へつかはして
なりして消息していはくいくさやめて徒然なり
[illegible]亀次といふ兵をいたさむ御方にも兵
高名すくれたらむをいたしてたゝかはしめて見物にせむ
出してめしあはせてたゝひとりにたゝかはしむ
御方にはかねて待かまへたる兵に将軍の
[illegible]次郎かへ次の舎人兼武といふ者
有けり力すくれたる者也これをいたす
たかひにいひて亀次城の中よりくたれ
すゝむ武人闘の庭にて安吉の軍兵とも

あひてゝ龜次城の中ちらし
て武人闘の庭さらしなる義経の軍員たち
うちとられを見るに義経方すくにらあひてら
あるを宗盛ちらひふ伊つをすまおいかも
みな去れく龜次来拔刀のさに去きらふある
御に見ゆるほふ龜次う以冒きてゝ影武
う長刀のちあふ来らうあおらぬ



将軍のいくさ場の時をはくてはけさる様天を
ゆるすとおぼしめす堀中はけ色無次の首とる
をなくこうらう御将軍
ゆるさまさま無次の首をとるひとをわるしくかけわいぬ女
を親更ふ有れる軍の色数角ゝ嫩り
くるはとくらの色おとくくるくらはぬ未別
四郎堀弘時病の器頑に入る事をとるる
孤して甲信をはくまる親といひく
仮さけおひくるひくお河のまに時をあるる
ひのひくふくふくや顔の首くあるうて死いき様
をる新の切目りくいる仮もくくふかくも
しあるくるもいてくるるもの御悦をはくふ

ある級の切目ゝくゝる級もとゝかゝるも
しゝゆゝゝ出いてゝゝ召るゝの御慌をなしふ
おゝ所ゝ将軍ゝれを聞てゝ驚いたも
ゝゝきゝゝゝにあゝさゝる人一回ゝゝゝく
内ゝ城ゝゝゝる所ゝゝぬゝゝゝ申ゝゝゝゝゝゝふ
江ゝの地ゝゝゝにゝゝゝゝてのふゝゝゝゝ臆病の
業ゝゝゝゝゝいひゝゝゝ

家衡ハ義家ノ弟ナリ　ヲ相ハ[illegible]者ナリ　[illegible]

[illegible]　将軍ハ[illegible]　頼義

奥州宗任ヲ[illegible]　名簿ヲ[illegible]

清原ノ軍ヲ[illegible]　[illegible]ノ力ヲ[illegible]

奥州ヲ[illegible]　世代ノ[illegible]徳ヲ[illegible]

伊勢ノ[illegible]　[illegible]ヲ[illegible]

相伴ノ[illegible]　[illegible]ノ[illegible]

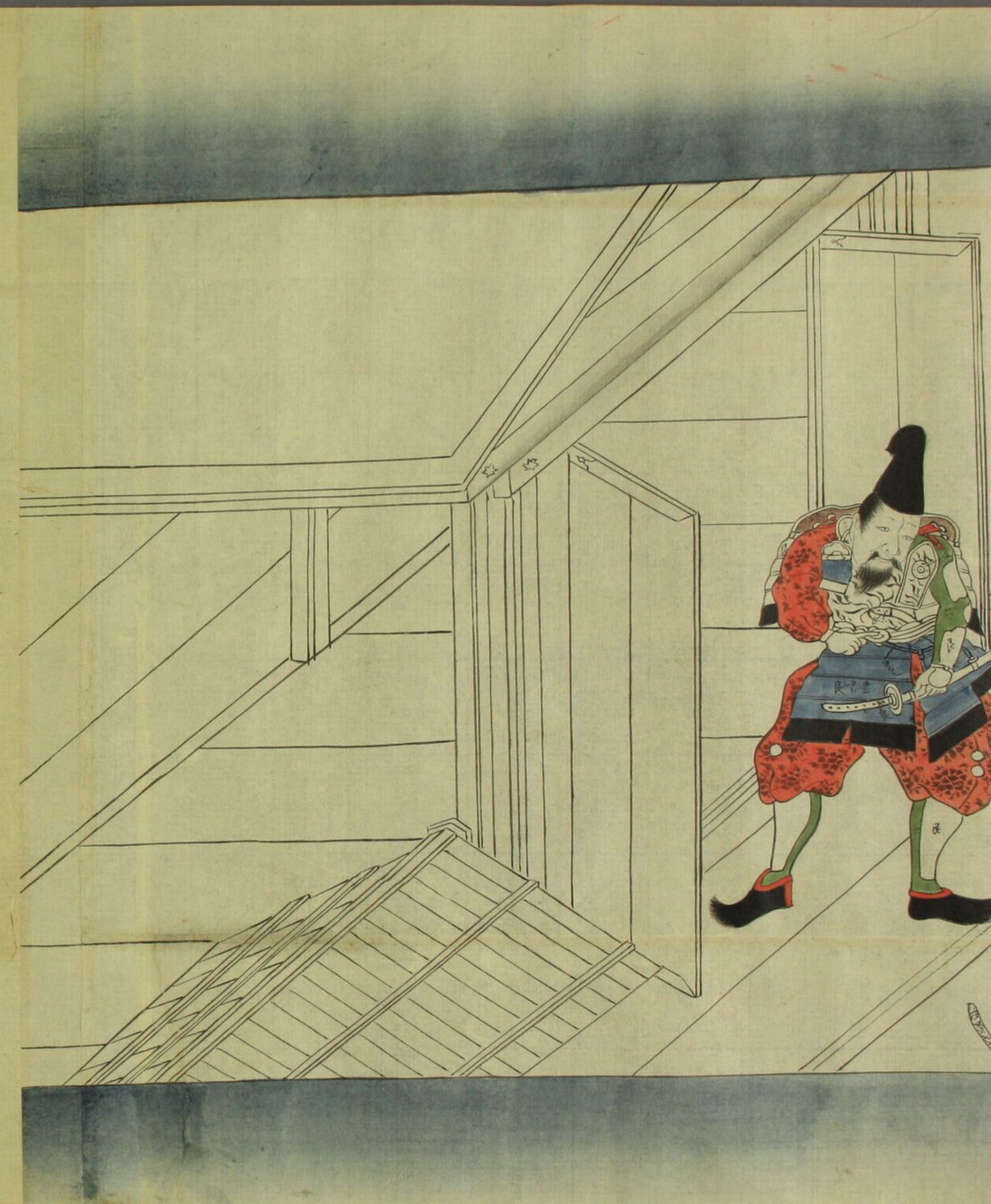
[illegible]不忠不義ノ[illegible]　[illegible]ノ[illegible]

[illegible]ノ[illegible]　[illegible]

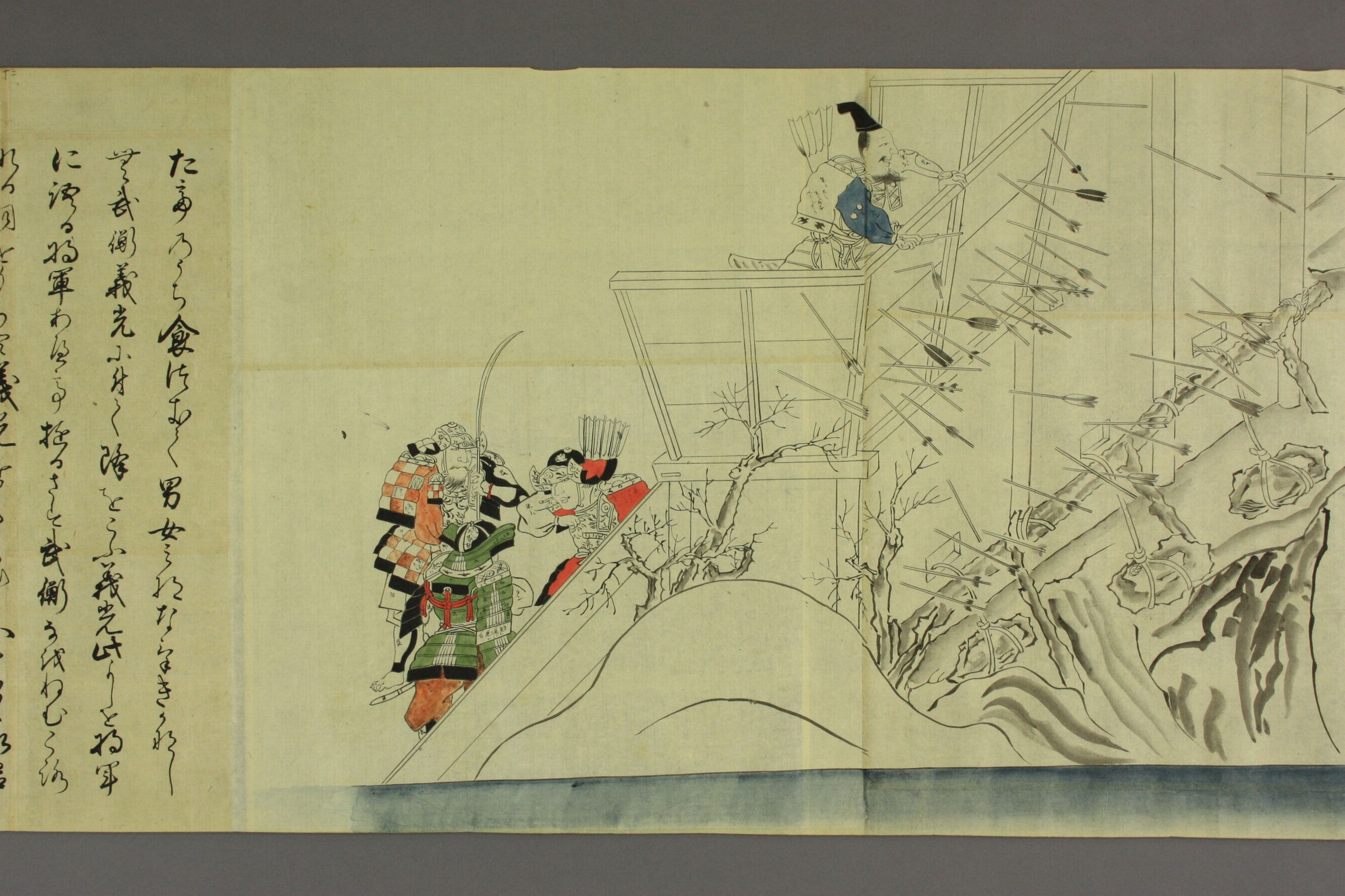
[illegible]　[illegible]

[illegible]　将軍ハ[illegible]

[illegible]　[illegible]ヲ任ヲ　伊勢[illegible]



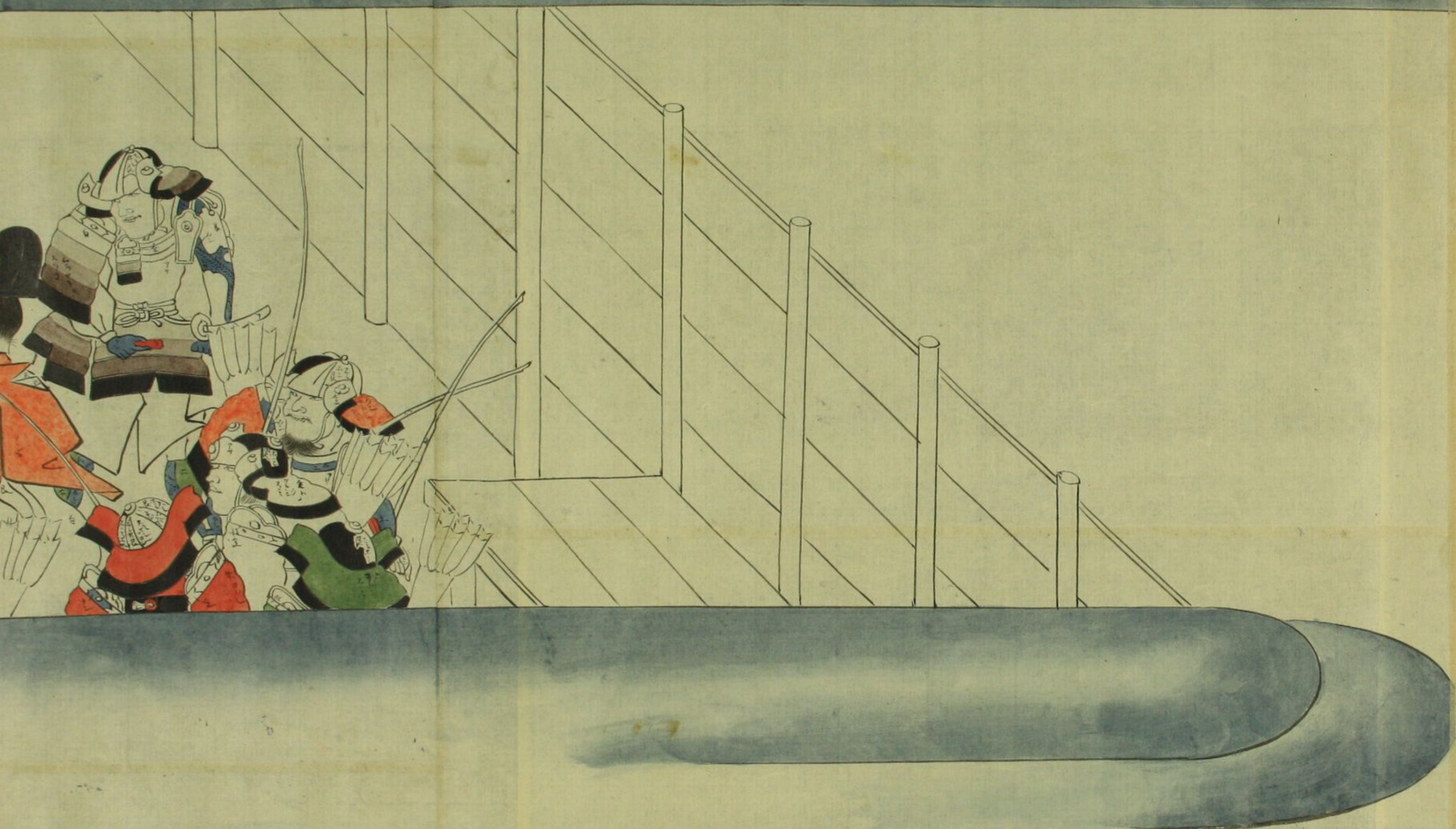
きゝとゝゝもとするを將軍せんてらよいもも
を將軍のいつやゝゝゝゝ　ゝ話を伊勢ゝゝふまゝ
弓矢ものあるゝかをゝゝゝゝ命をゝゝゝゝゝゝ
毎ゝをゝゝゝゝ弓矢とゝふ



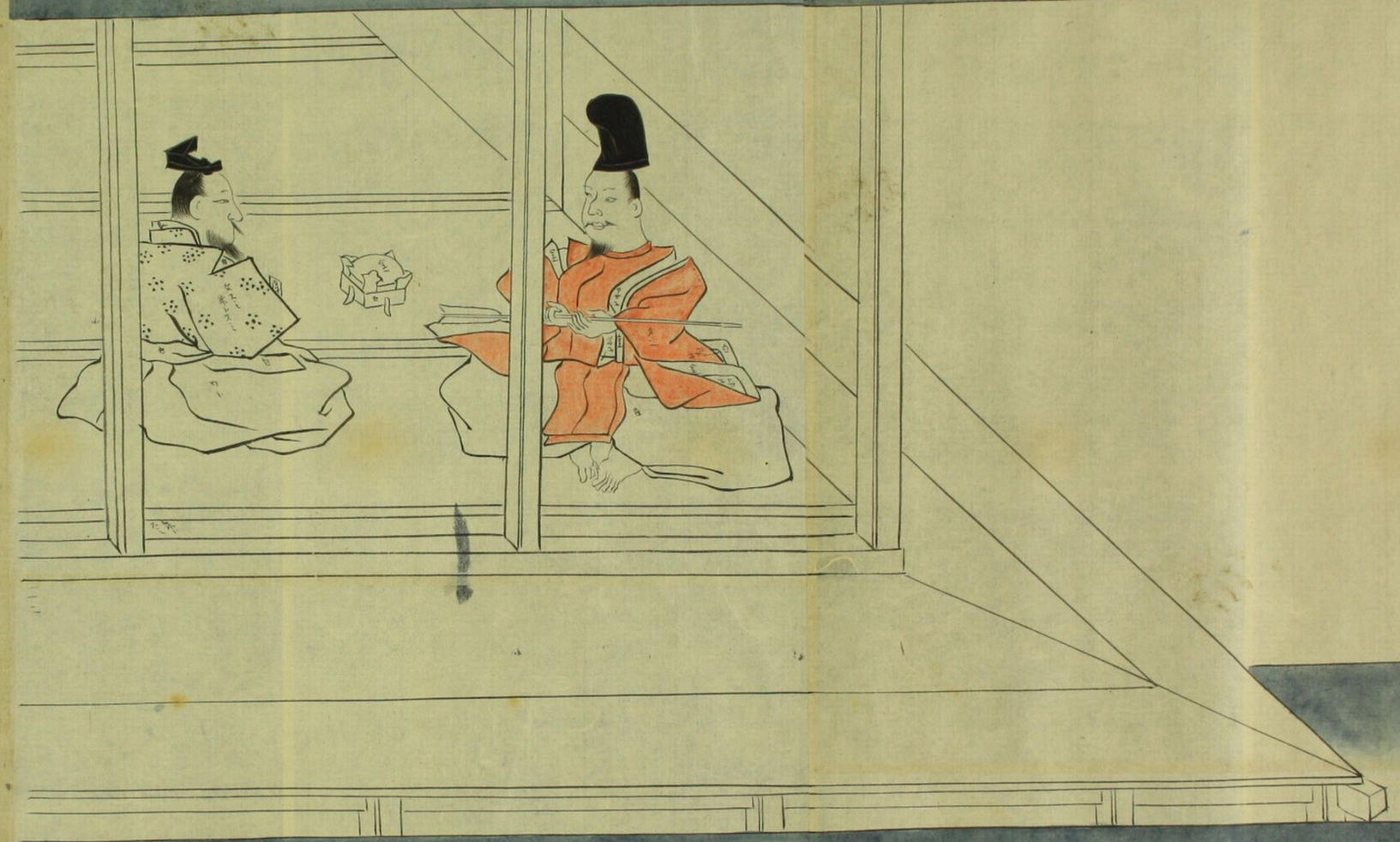
たゝかひのうちに食けをあまく男女うちはなるきうあり
さて武衡義光ふ分くゝ強をとゝふ義光此うちを将軍
に沈る将軍わ多ゝ武衡うち代わむうあり

たゝかひとりて食けるに男女ともなきさけ
ぶ武衡義光ふせく陣をとる義光はりと将軍
に申る将軍わたるを聞て武衡うたがはしく
思ひ給ひて義光をいたはりて新君
かくけるに城乃井へ来りなまし其内ともふ事
なはさりともとうむいふ義光ゆ給
ふをいふときて将軍義光をしたいつゝ
むしもにいたるに大将次将のかゝれ
まねくかゝれの陣くりいまきたをよせた
まふ武衡家衡ふたりこめ給ふ
はわを百般をひるまなふ乃ひらん
をたゝを第代の後のもの城を子里乃ふ
海をむしくひくれはしるひるの
ゆるしてい武衡うたて義光
ふ振舞渡給ふ人をたゝ使一
人をたゝ四ふ給ふ義光師
おもの中ふ誰ひをする武衡季方
はまめけむして季方をあ
乃をきねむんのをはとをて力を
をたゝ城のまく開て
城中共ふ人を人を
加

人をきこえもしたる人の
もとにまゐり妹のとゆく開ていけふ人を人を
入搬申れ給はれとこそ
口を林のうへにおきてみちゆけさめり季方
わけいるまをうたてあやしく入家の中にのい
ねて井ぬ武衡出合いろ〳〵もりいふ季方ちかく
ゐよりてあるを武衡をかくれてあるす武衡うせぬる
てたちけさせたくゝ去時後り中さうゐをよりを
云ゆ重ねくみていてゝとゝす季方うつ屋
妹申の幼稚を見ていふ度京をもち給
なけれゝうれまくうれまくあゝんもてまさいひゆ
とゝす武衡うちうち大ゐるやをやりいてゝ
あれを雑人の矢ゆく結ふこの矢はまこふ矢ゝ
ちこうるいあうをいふ季方
うんゐいくうしみ心れはまやたりいふ文をし
いふゆをゝ家をもちふ見ゝいさたゝ
いまゝふみゝ伊ゝみゝ去給人すると出ゝ
うこけくれ色の申ふくとをゝ去給帰さき
ゆあゆゆうゝ結ゆひいふ武衡のいふ給れなゝ
ゝゐゐを事ふをあゝ人ゐゝ帰給人ゝ
申給へていひてゆゝ書方内記のおくに色の
申をまけてかゝりけをゝけはゝよをとけく
ゆゝてはてゝうゝ我ゝゝ事ゐて

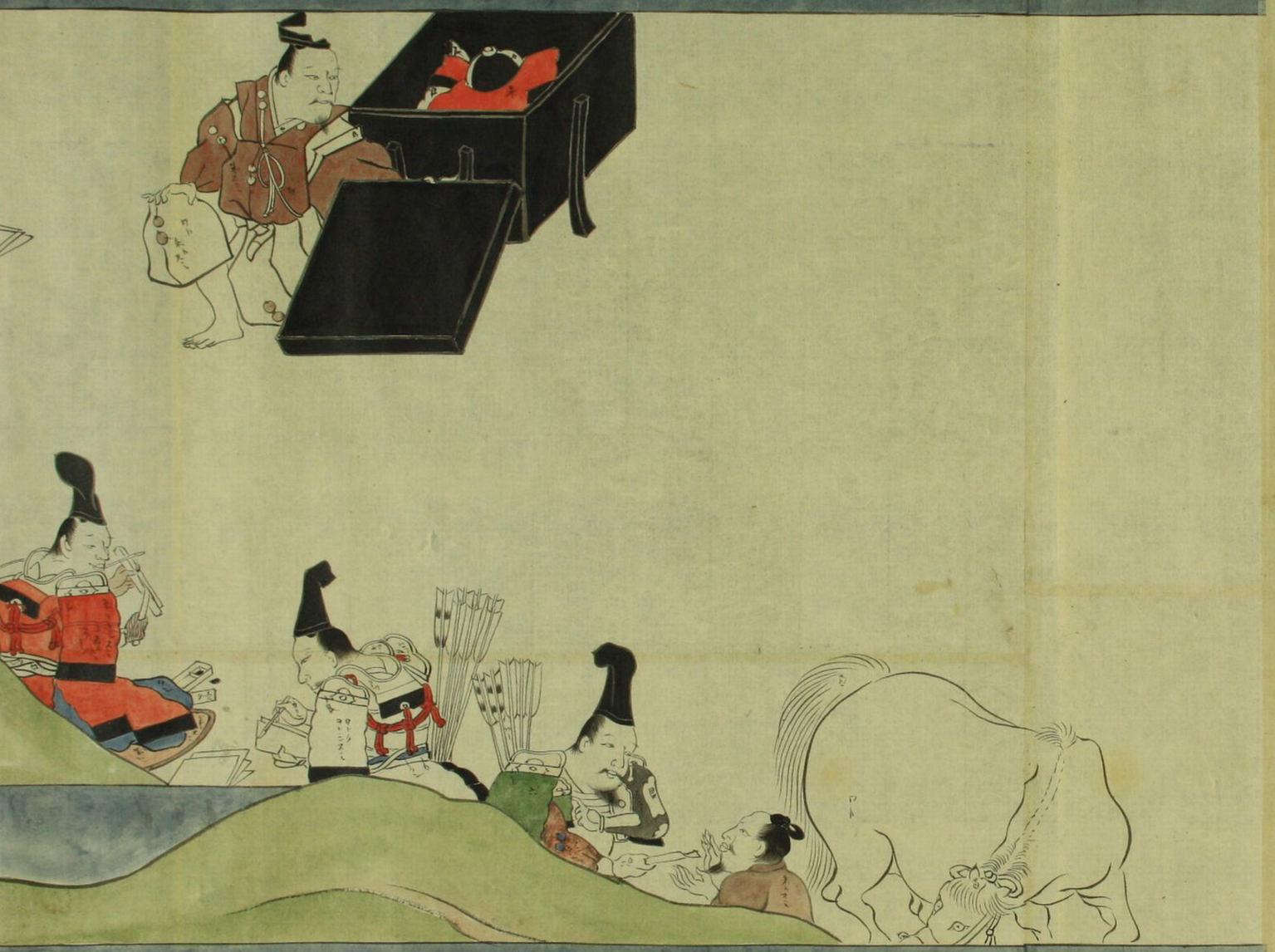


たゝかふ事ふかしあるに角ゆくゝ帰陣ゆくゝ
中務へていひてやりけり春方内記のあるに笠の
中をまけてかゝりけるよりたをりけく
うちあつまりてたゝかふもあしかりけるとて事ハて
あゆくいてゝみたり春方の世わかれをうたりのち
いふくゝたゝかふ事なし

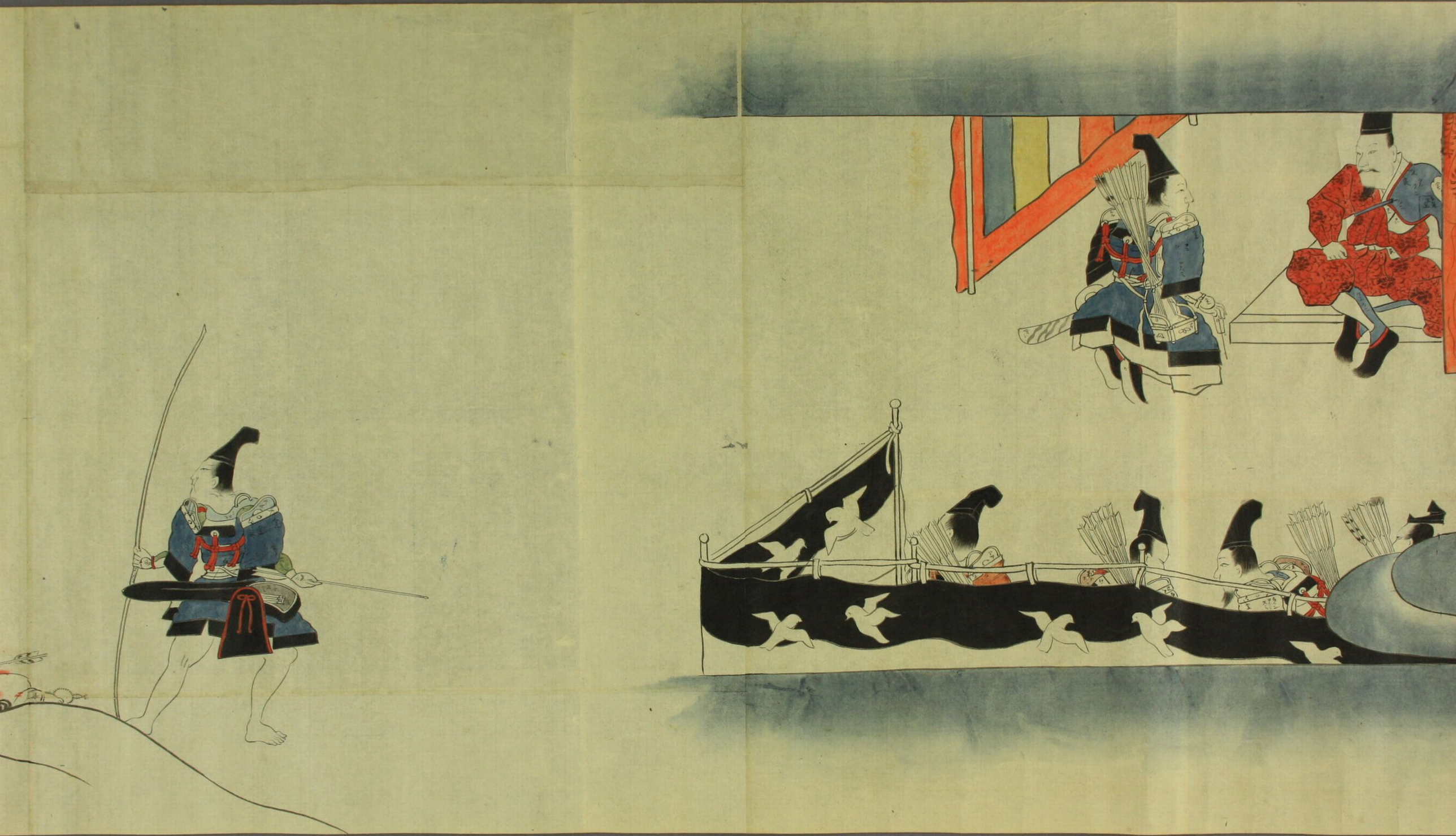


城を海にうつす秋より冬におよびぬさむく法
めくなりてみるもの者不知九二
いつの年ありしことくに大ゆきゆきむ事すてふ
七日時々の事なり雷にあひうは家り二
きるむ事うふ海素あとうは

いつ頃にかたくさんに大いなる事なり
と日頃の事なり雷にあひては家内
ちりぢりに成ふ事なり
国苅有り合いうく京への乱れひて
なくなりと書て郡内一宮ゆふおは
まてこれんす書て紙にて粮料として
いふとして京へ海の乱れ
わうきうきをぬきの馬もと国苅へ
中城中 飢饉の乱れ
女小童部なく城戸を閉きく出来
軍をみる紙あるうれをと紙乱れ
おもて紙をくおほくむうく
信秀武将軍に中紙この下ゆく
女童部ら郡頓をきむふ将軍を為
秀武ら紙国のまへ忍ぶ紙乃
雑人ちめてをく紙は城中のて
やく書あうすに書の郡ふ
紙紙乱れ馬おなりもく
わちまをわふこの紙乃新女童然
城中 名も乃愛あ女なり城中に
を失ひく紙あるに拾をぬ事
ちまもく一体ふ紙をしまて



[illegible]
城中此者ども乃愛あ[illegible]たち城中に
をる人びとくひしあるに物をもとめ事
をまもむかしく一味ふうをしまをも
抗志うは城中のていまをうしなう酒
紀ならうふ物軍まを喰て[illegible]と
いひつ[illegible]るとうは此中もみ物員のおう数
すうをうまうたうまう城乃戸をとうて
くうをもの[illegible]



剱

左少將保綱